2日目 「医療構想と地域包括ケアのデータを読み解き保健所の役割を明確化する」

「保健所における実践報告」

福岡県田川保健所 佐野 正

1. 福岡県の体制

福岡県には、政令指定都市である福岡市、北九州市、また中核市である久留米市、さらに大牟田市が、それぞれ保健所を設置している。そのため、これら以外の56市町村を県設置の保健所が所管している。

県設置の保健所等に勤務する医師は、現在29名おり、その勤務先内訳は保健所、本庁、地方衛生研究所、精神保健福祉センター、出向（厚生労働省）となっている。

2. 福岡県保健所長会等の取り組み

福岡県では、保健所等勤務医師による研修を年10回程度実施しており、昨年度からは、地域医療構想をテーマとして数回実施している。

また、県医師会が模擬地域医療構想調整会議を実施し、それに各保健所長が参加している。

3. 田川保健所の取り組み

田川医療圏（人口約13万）は、圏内に8市町村（1市、6町、1村）あり合併は進んでいないが、一方で医師会、歯科医師会、薬剤師会は1か所ずつである。

田川医師会が設置している田川地域医療連携協議会の副会長に保健所長になっており、医師会員に対する地域医療構想研修会の実施など、企画運営段階から関わっている。

また、田川区域地域医療構想調整会議は、保健所が事務局となっている。

今回、上記の取組状況を、活用したデータと合わせ報告する。

保健所には、法に基づく報告以外に、公式・非公式に関わらず、管轄内の医療機関に関する様々な情報が集まっている。

統計情報に加え、これらの情報を活かすことで、地域医療構想の推進に保健所が大きな役割を果たすことができると考える。